

冬合宿 山行報告

日時 2011.12.28～12.31

場所 飯豊連峰

目的 冬合宿～雪の中で泳ぐ～

山名 三国岳

ルート 川入 松ノ木尾根～飯豊本山

メンバー 谷嶋さん（リーダー）

鈴木さん

亀井（著者）

ルート図（赤線・オレンジ線・緑線の詳細は後記）



出発前

「今年は飯豊」という谷嶋さんの言葉に、一度は行ってみたいと思っていた著者は、飯豊合宿参加に手を挙げます。

リーダー谷嶋さん・食料担当鈴木さん・団体装備担当亀井ということで始まった飯豊合宿。リーダーは、後発隊の先輩方と連絡を取っていただき、色々情報を集めて計画をまとめて頂きました。

食料担当は、細部まで食料を考え、買い出しから準備までして頂きました。

団体装備担当は、I C Iでガス缶買って、会のテントと鍋を借りてきましただけでした。

27日 21:00～大谷集合～

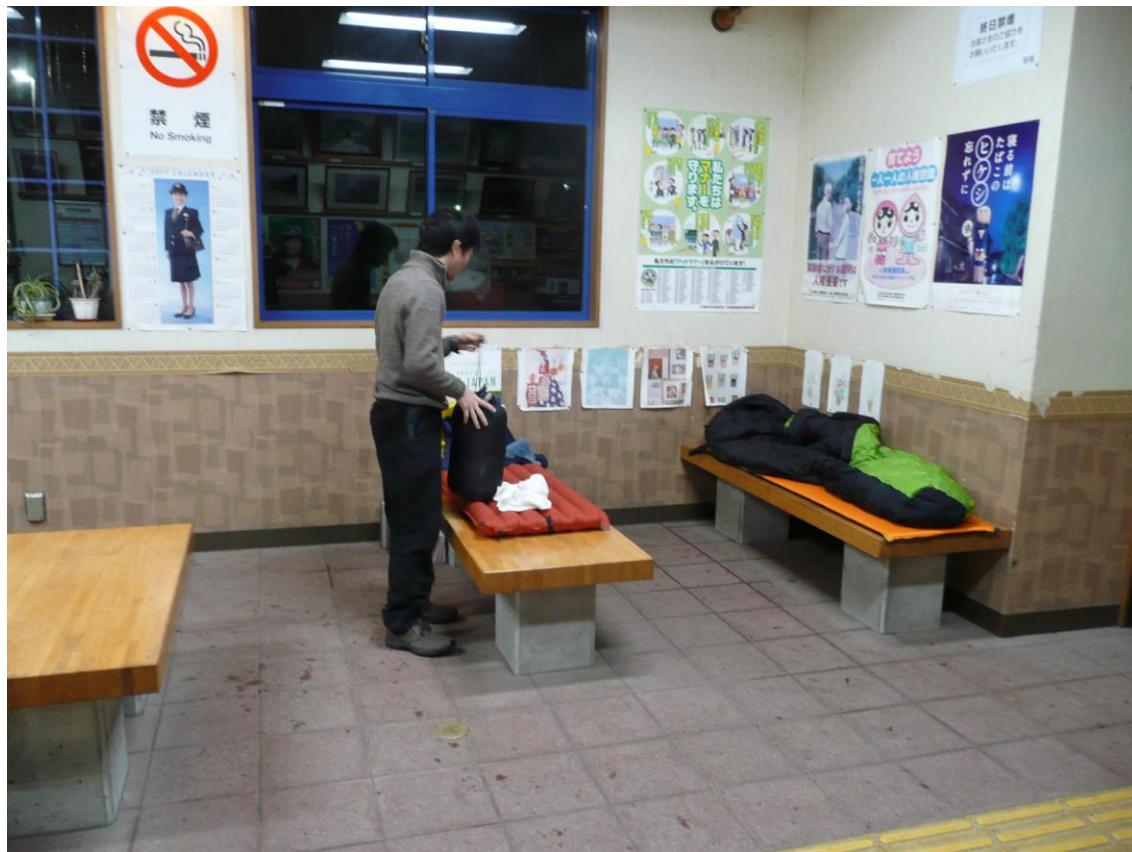
三人とも時間通りに集合です。すぐに谷嶋さんの車に荷物を載せ、出発。

車内では飯豊の話はもちろん、計画やら後発隊の話などをしていました。

高速道路で会津方面に向かっていたのですが、トラックが多く、一般乗用車はあまり走ってはいなかったようです。著者は内心、これから冬合宿が始まる気持ちに少し緊張していました。今夜の宿は、山都駅の駅舎ということで、コンビニで朝飯を購入し、テルモスにお湯をいただいて、駅を目指します。

山都駅に着き、駅舎内のベンチにて寝袋をひろげ今夜の寝床となりました。

駅舎内は快適です。夜中には電気も自動で消えました。



28日 朝～目指せ川入～

今日の予定では、松の木尾根 1270M付近にて幕営です。

事前に後発隊の先輩方より情報を仕入れており、車は川入集落までいれてしまうと、雪で出れなくなってしまうということが以前にあったので、一度、川入に荷物をデポしてきて、車をいいでの湯に止めて、空荷で歩いて行こうとなりました。

いいでの湯を通り過ぎ、山道に突入。あれ・・・、川入方面の道に雪がたっぷりです。

なんと川入分岐までしか除雪されていませんでした。あへれへ、ここから歩きか～。

しかたなく、分岐に荷物をデポし、いいでの湯に戻りました。

著者、いいでの湯の駐車場にて用意をはじめると、フリースをザックの中に入れっぱなしに気づき、ロンTにカッパで寒い寒い。その代わりなのか、ザックに入れておくはずのテルモスと日本酒を持ってきてしまっていた。しょうがない。お湯割りを作ろう。

リーダーと出発前のお湯割りを頂き、右手にお湯・左手に日本酒で歩き始めました。

分岐まで歩き、ザックを背負いました。すると川入方面に足跡が・・・！

ここからラッセルにということにがっくりだった著者は、嬉しさがこみあげてました。

と、歩くこと 100～200M。踏み跡がなくなりました・・・。(がくくし)

踏み跡がなくなり、三人交代でラッセルが始まりました。雪は膝下くらいだったと思います。しかし行けども行けどもなかなか川入が見えてきませんでした。時間で2時間50分ほど歩いていると、リーダーが「何か聞こえる」と後ろを見ました。すると、ゴーゴーと音を立てながらラッセル車が！！？？三人のラッセルが跡形もなく消えてゆき、ラッセル車の方が声をかけてきました。

ラッセル車の後方を走っていた車の方も声をかけてきました。「どこまでいくんだ～？」など声をかけてきて、「飯豊山を目指します」とリーダー。色々話していく、「集落までどのくらいですか？」とリーダー。すると、「乗ってくけ～？」と集落の方。送ってもらえなかいかな～と思っていた著者は、心から嬉しいと思いました！ありがとう、集落の方！そして、うまいこと乗せて頂く話をしてくれたリーダー！話術も山の技術ですね！

川入まで送っていただき、車中でも川入の事を聞き、冬は川入集落の人は町に降りているらしく、たまたま先日降った雪をおろしにラッセル車を入れたとのこと。ラッセル車を入れた集落の区長さんも紹介され、連絡先まで教えて頂きました。なにかあったら連絡をしてくれと言っていただき、下山時には区長さんが川入集落まで迎えにきてくれるのかな？と思いながら、区長さんという最高の召喚魔法を手に入れました。

初日からイベントが多かったですが、車中で一緒だったおばあちゃんの「気をつけていくとくんだぞ」という言葉に、緊張がほぐれ、心が引き締まりました。



川入集落を出発した三人は、松の木尾根を目指しました。

ずっとラッセルで、交代で先頭を歩いて行ったのですが、飯豊の雪は重く、進みは悪かったですように思いました。

目標としていた 1270M には届かず、松の木尾根のとりつきの手前、堰堤の近くまで行ったところで幕営となりました。堰堤あたりは吹きだまりや、斜度の高い積雪でした。この先の飯豊の洗礼を受ける序章としては、申し分ない雪になってきましたように感じました。

テントを張り、お湯を作り、夕食を作り、お酒を飲む。この時点で著者の持ってきたお酒は空になってしまいました。夕食は豚肉たっぷり！お肉はやる気と元気を UPさせます。美味しいご飯をたらふく食べて、早めの就寝となりました。

このとき、著者のエアーマットが、ブリブリっと変な音をたて、壊れてしまいました。リーダーも経験ある症状らしく、どうやら悲しいエアーマットに姿を変えたようです。これよりこの日を含め 3 日間、寝るときは寒さとの戦いになってしまいました。

29日 4:30 起床～バトルロイヤル 松の木尾根～

朝ごはんはチーズ in 卵雑炊です。もともと朝ごはんの食が細い著者は、普通より少なめしか食べられませんでした。朝ごはんを沢山食べられるようにする修業が必要な著者ですが、無理すると吐いてしまいそうなので、ここは無理せず二人に沢山食べてもらいました。ごめんなさい。

用意をすませ、松の木尾根に出発しました。尾根のとりつきの前に、渡渉があります。しかし小さな流れで、岩もあり、慎重に行けば問題ないです。渡渉の偵察を行ったリーダーは、一瞬、スッと落ちました。



渡渉を無事に終え、松の木尾根に突入であります。

結果から言ってしまうと、この日は松の木尾根 1270M 付近(初日の目標)まで行きました。上記地図を見るとわかりますが、距離でみたらほんのちょっと。。。しかし、これが飯豊との本当の戦いでした。雪は膝から腰にかけてあり、斜度もなかなか。ザックを背負った状態でのラッセルは、ひどく疲労をするうえに、全然進まないです。空荷にして、交代で先頭が雪との戦闘！後続はザックを背負っているせいか、先頭のラッセルに追い付けず、三人はバラバラで歩みを進めていく状態です。そのうえザックを背負うと、細かい木に赤旗がひつかかるのです。重たいザックを右に左に赤旗を動かすだけで、疲労が増していきました。この尾根はしんどかったです。

時より後方の空を見ると、太陽が見える時もありました。きれいな雪の山が広がっていて、山の奥深さと冬山の美しさをとても感じました。

もういい加減歩くのが嫌になってきたら、1270Mにつきました。(早くテントにはいりたかったです・・)

テントに入りお茶していると、天気が気になっていました。すると、どうやらここでは携帯の電波が届くらしく、天気図を GET できました。天気は荒れ方向の様子で、その夜はテントが風でばたばたしていたようでした。

リーダーのお酒を飲み、ご飯もたらふく食べ、悲しいエアーマットで睡眠となりました。

30日4:30起床～行くぞ、三国小屋～

著者は、悲しいエアーマットあまり寝られなかったようです。

昨夜、明日の計画（目標）をどうするかとリーダーと話していく、今日は三国小屋！！という目標を立てました。そして、いらない荷物はテントにデポ。極力軽量化で三国小屋を攻めようとなりました。このリーダーの作戦がすばらしく功を奏し、三国小屋を落とせたと言えるでしょう。

朝ごはんを食べ、必要なものだけザックに詰め込み、出発となりました。

歩きだしてみると、ガンガン進みました。軽量ザックと空荷の効果は高く、気持ちいいスピードが出せるようになりました。リーダーは空荷で先頭を歩き、赤旗を手にしていました。朝、テントをでてからは、だんだんと樹木も少なくなり、赤旗を打つようになりました。

天候は、風と雪。体が持っていかれるほどの風ではないですが、地面と雪面との境目が分からなくなるようなときがあったように思えます。稜線直下あたりで先頭を進んでいたリーダーが、雪庇近くを踏み、埋まっていました。その横の雪面にピシッと裂け目ができ、雪庇か！と初めてわかりました。雪庇は怖いからきらいです。

赤旗を打った所から、ひとつ前の赤旗を見ていました。空と地面の境目が分からぬよう風でも、赤旗ははためいていて、帰りの道を導いていました。でも二つ前の赤旗が見えるようなことはなかったようでした。

稜線に出ると赤旗も減ってきて、もう少し距離がありそうだが赤旗が終わるところまでは行こう、となりました。稜線の雪は締まっていて、ラッセルは無く、風もそれほどではないように思えましたが、赤旗が終わりそうなので擊沈かな～と思っていました。

すると、歩いて数分、いきなり構造物（三国小屋）が目に飛び込んできました。

「三国小屋だ！！」「ヤッターー！！」と大声で叫びました。

小屋の中には入れるようで、冬用の入口を使い、中で休憩をすることになりました。

三国小屋はきれいな山小屋で、中に入っても誰もいません。小屋の中には記録帳がありました。溪嶺会がやってきた印を書き残していました。他の記録を見ましたが、やはり冬に入る人はいないようです。山小屋の中には、他の山岳会ののか、デポした一斗缶が一つ置いてありました。

軽く行動食をとり温かいお湯を飲んでいると、リーダーが爆弾を投下してくるということなので、バーナーで暖をとっていてくれとのことでした。しかしリーダー、ガス缶を忘れてきてしまっていました。

しばらく三国小屋を堪能し、下山路を歩きだしました。赤旗はしっかりと三人の足どりを残してくれていて、帰り道を導いてくれていました。一番後ろをあるっていた著者は、赤旗を回収しないのに気付き、リーダーに言うと、赤旗は置いていくとのことでした。後発組の事もあるようですが、赤旗は基本的に回収しないようです。

2011年 年月日	通過	2011年 年月日	所属	氏名 T.S.H 49年1月16日生 バーティ 男 2人・女人 連絡先 tel 040 3671 0582	シロ一川入	支度	下山料 X13.00 出日30
10月26日	月 日 時	10月27日	所属				
年月日	年月日時	年月日時	年月日時	年月日時	年月日時	年月日時	年月日時
11月3日	月 日 時	11月4日	所属				
11月30日	月 日 時	12月1日	所属				
2011年 11月30日	月 日 時	2011年 12月1日	所属				
年月日	年月日時	年月日時	年月日時	年月日時	年月日時	年月日時	年月日時
月日	月日時	月日時	月日時	月日時	月日時	月日時	月日時
年	年	年	年	年	年	年	年

下山は素晴らしい早かったです。あっという間にテントにつきました。
 そそくさとテントを片づけて、下山を始めました。
 ここからは一気に尾根下り。しばらく下山すると、見晴らしが良くなってきました。そこから見える景色は完全なモノトーンの世界でした。白と黒しかない不思議な景色です。
 あっという間に尾根の取り付きまで下山し、渡渉して、樹木帯を歩いていると、緑色のテントと人が！！！後発隊と出会いました。本日の行程もいい時間になり、テントを後発隊の近くに張ることにしました。後発隊の先輩たちは、準備出来たらこっちのテントでご一緒しましょうとのことで、自分たちのテントで準備が終わるのを待っていました。
 しばらくして、およばれしました。後発隊のテントはガスをガンガンに焚いていて、テントの中の上には手袋などが干してあり、入った瞬間テントとは思えない暖かさを感じました。すぐにお酒がまわってきました。出発前に、後発隊の食料計画書も拝見していたのですが、お酒の量が半端ないでした。液体は持ってくるだけで重たいのに、惜しみなくお酒をのませていただけて、とてもとても感謝です。おつまみも豊富で、イカに煎餅に魚の乾物と、ドカドカと沢山用意してありました。少しでもお礼にと、著者が持ってきた薄切りのハムを食べてもらおうと出すと、「焼くとおいしいのよ～」と隣からサッとフライパンが出てきました。すると、「お酒（ブランデー？コアントローかな？）をちょっと入れるといいのよ～」と優しい声で言われ、さすがだな～と思った著者でした。すると、アツアツの

フライパンのハムは勢いよく炎上。あまりの火力にテントが燃えてしまうと思いました。大騒ぎの著者はびっくりでしたが、先輩方はそんなことも楽しむかのように、笑っていました。そのあとに、おいしいシシャモも食べさせて頂きました。シシャモありがとうございます！シシャモ！！いい感じで酔っぱらって、自分たちのテントに戻って夕食となりました。今夜のメニューは、マー婆一春雨。と、先輩方から夕食の差し入れも頂きました。全部食べておなかいっぱいです。昨日までは、下山したら豚カツ食べたいとか言っていたのですが、そうでもなくなっていました。

この日も非常に悲しいエアーマットで睡眠です。

31日 4:30 起床 ~川入集落のおばあちゃん~

今回の山行で一番寒い夜でした。濡れたシェラフと悲しいエアーマットで寒さがきつかったです。食料担当の鈴木（か）さんも、寒さでほとんど寝られてないとの事でした。

朝起きてせっせと支度を整え、後発組との別れをして、最終日の帰り道を歩きました。しばらく歩き、初日に休憩した大杉のあたりに、鈴木さんが腕時計をなくしたようだと言っていたので、三人で雪を掘りまくりました。残念ながら、見つかりませんでした。

著者は、帰りは後発組の踏み跡を期待しています。しかし踏み跡はほとんど消えていて、膝くらいの雪歩きになのです。平地の雪に、疲労が増していきましたが、行きの時とは違う飯豊の景色がとてもきれいでいた。

著者は、二人から徐々に遅れ、川入集落にたどり着く前に、ばてばてになってしましました。

川入集落からいいでの湯までの距離を考えると、心の中で、区長さんいなかな～（送ってもらいたい）なんて思いながら歩いていました。ほとんどあきらめてましたが、期待はしたいものです。

川入集落を歩き始めると、雪に車のタイヤの跡が！まさかのお迎え？＾＾

区長さんではなかったですが、初日に川入集落まで送って頂いた方とおばあちゃんが、屋根の雪おろしをしていました。「もうすぐ雪おろしあわっから～」と、いいでの湯まで送ってくれると言って頂きました。下山の日を伝えてだったので、おばあちゃんはそろそろ帰ってくんじやないかね～なんて話していたそうで、きっと、待っていてくれていたんじゃないのかな～なんて思っています。いいでの湯までの道中は意外に長く感じました。その距離を歩く事になっていたのかもと思うと、どれだけ時間がかかることやら。。。。

いいでの湯まで送っていただき、おばあちゃんともお別れをし、無事下山しました。

下山後記

いいでの湯で温泉を頂き、大みそかということで地元のそばを購入しました。やっぱり、下山するとおなかが減っていたので、肉が食べたいと話をしていました。ステーキ屋に向けて出発したのですが、山都の駅の近くに、ほがらか食堂というのがあり、そこに変更となりました。お店は地元感満点で、ラーメンとかつ丼が推しメニューのようです。ラーメンもかつ丼もとても美味しく、飯豊・川入攻めの際は、ほがらか食堂も攻め落としてもいいと思います。



食事後、大谷まで帰宅。合宿終了となりました。

飯豊の感想

1 飯豊の雪は重く、厚みを感じる雪。

気温はそれほど低くないのか、いろんなものが濡れるという経験をしました。著者は、テントシューズをしづれるくらい濡らてしまい、その後使用することできなくなってしまいました。シェラフも、濡らさないように気にかけていたのですが、日に日に濡れが増していき、最終日には結構濡れてました。（もう一泊はきついくらいの濡れでした）濡れは大敵でした。次からもっと気にかけるようにします。

2 飯豊の山の奥深さ。

今回の川入からのルートはメジャールートらしいのですが、後発組以外とは誰とも会いませんでした。本山落とせるんじゃないかな?なんて思っていた著者でしたが、考えが甘すぎました。遠いです。いつか全山縦走といっていたリーダーには感服です。もし、本山あたりで天候が悪くなり、閉じ込められたらと考えただけで、ちびりそうです。

合宿の思い出

鈴木（か）さんの目出帽？が不思議な形でおもしろかったです。

地元の方々の優しさが嬉しかったです。初日に車で送っていただいて、川入に着いてすぐ、何も言わずにおばあちゃんは雪おろしを始めてました。仕事に対する取り組みかたというか姿勢みたいなものには、頭が下がります。

お酒は重たいですが、沢山あったほうが山屋っぽいです。

おしまい